

SDGsに関する全学アンケート調査

Survey on Sustainable Development Goals (SDGs)



法政大学
HOSEI University



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



ALS

アンケート調査の概要

調査名	SDGsに関する全学アンケート調査
調査目的	<ul style="list-style-type: none">・ 法政大学の学生・教員・職員のSDGsの認知度の把握と向上・ 法政大学におけるSDGs達成に向けた取組の発信・ 法政大学におけるESDの推進
実施主体	総長室付教学企画室
調査期間	2020年1月14日（火）～3月4日（水）
調査対象	法政大学に所属する全学生・教員・職員
配布数	学生：30,591名、教員：778名、職員：442名、計：31,811名
回収数	学生：874名、教員：67名、職員：194名、計：1,135名
回収率	学生：2.9%、教員：8.6%、職員：43.9%、計：3.6%
調査方法	WEBアンケート（Google Form）

アンケート調査の質問項目

0. 前年度アンケートの回答有無

1. SDGsの認知度および関心度に関する質問

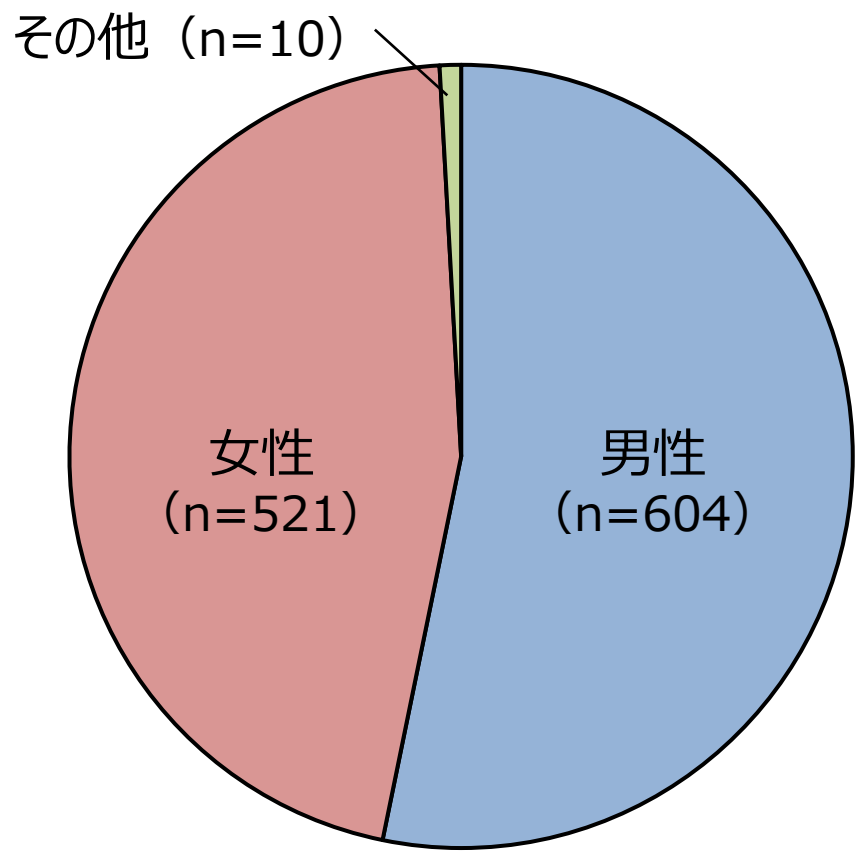
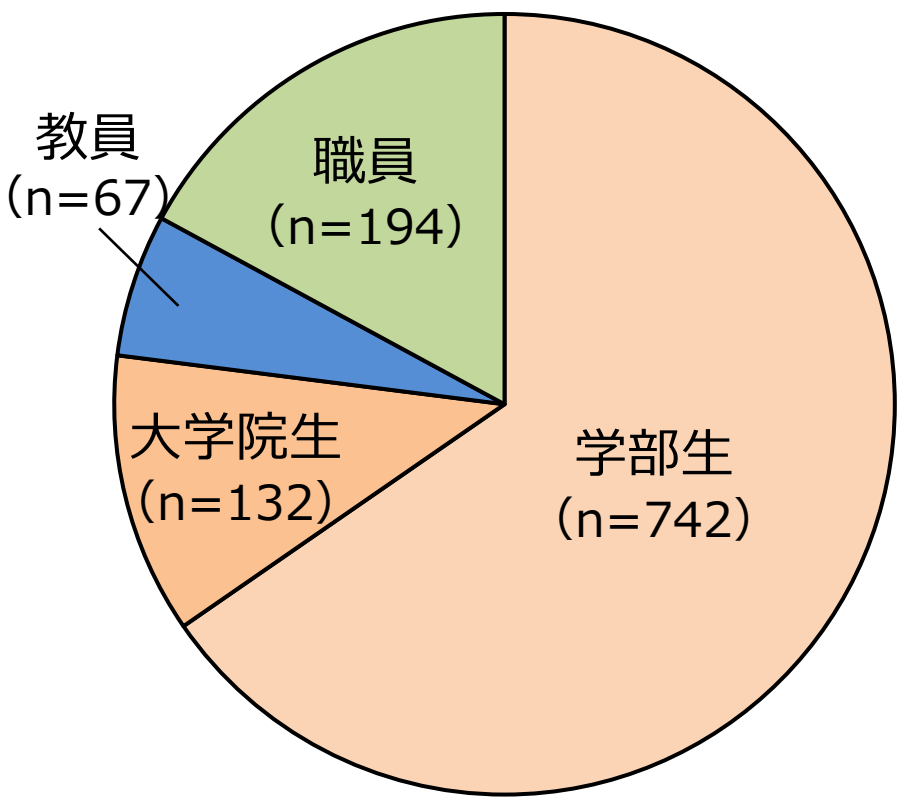
- 1-1. SDGsの認知度
- 1-2. SDGsの認知手段
- 1-3. SDGsの関心度

2. 本学の取組の認知度に関する質問

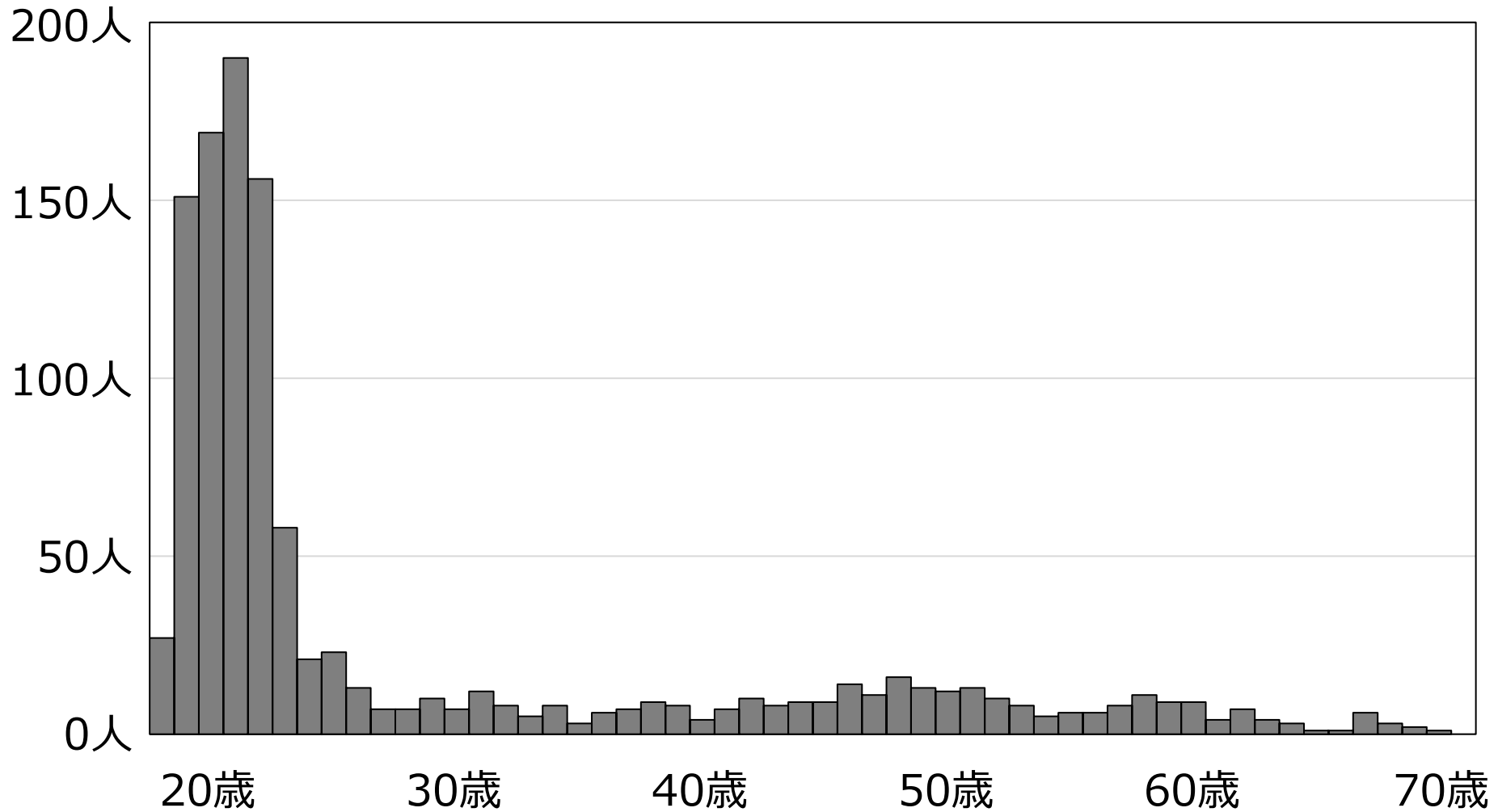
- 2-1. スーパーグローバル大学に選定されていることに関する認知度
- 2-2. 2030年に創立150周年を迎えることに関する認知度
- 2-3. 法政大学が掲げる長期ビジョン「HOSEI2030」に関する認知度
- 2-4. 「SDGsステイトメント」に関する認知度
- 2-5. 「SDGs科目群」に関する認知度
- 2-6. 「HOSEI SDGs WEEK」に関する認知度

3. 現在および将来に関する質問

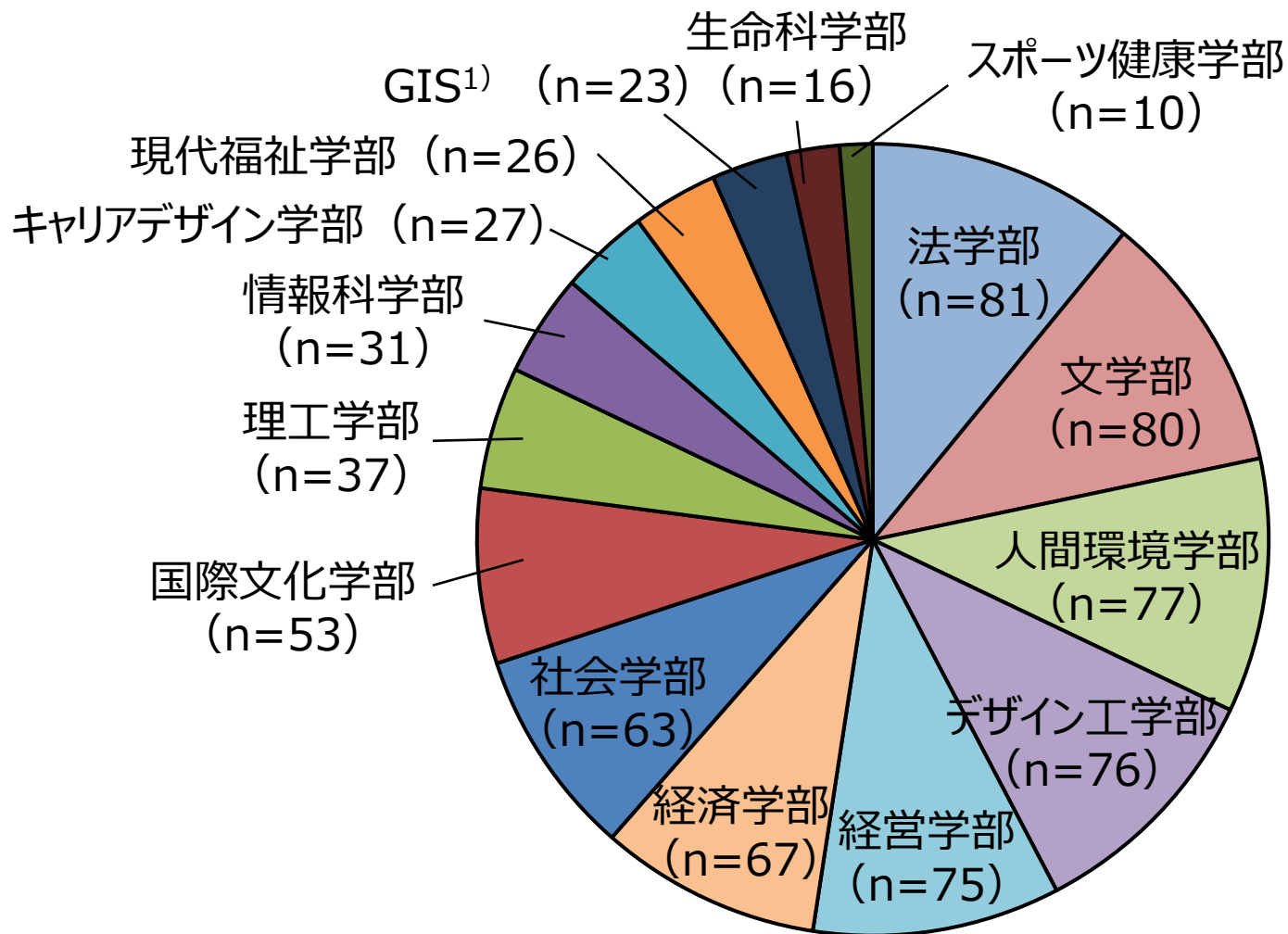
- 3-1. 現在の私生活に対する満足度
- 3-2. 2030年までに達成したい目標の有無
- 3-3. 将来、達成に貢献したいSDGsのゴール



学生が全体の7割以上を占めており、男女比はほぼ均等であった

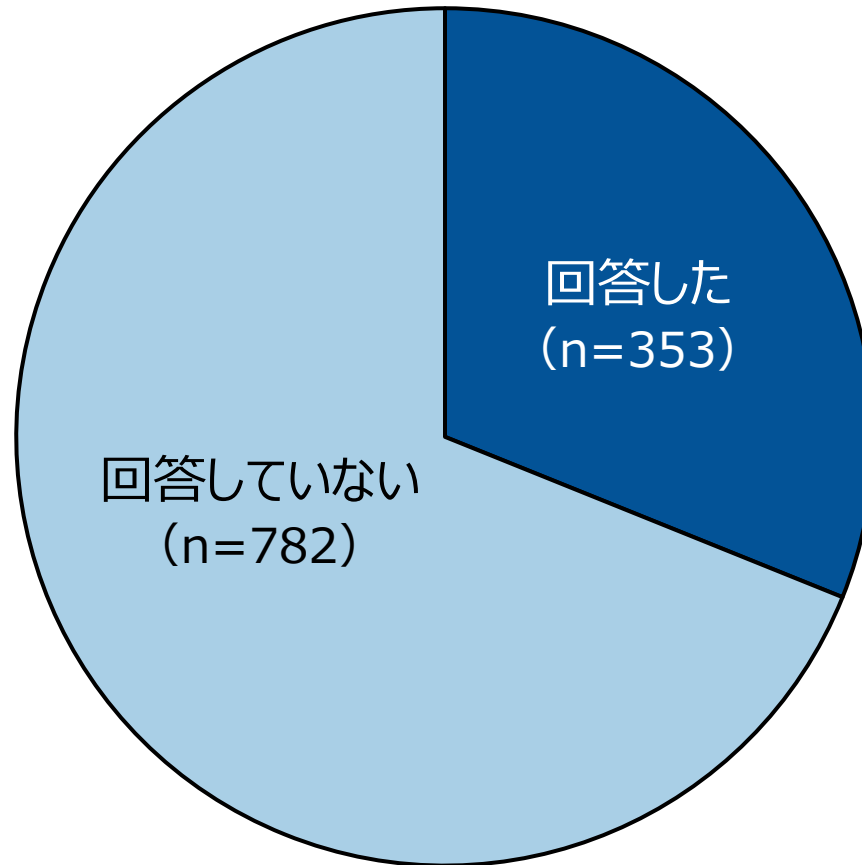


学生が大半を占めており、10代後半から20代前半に回答が集中している



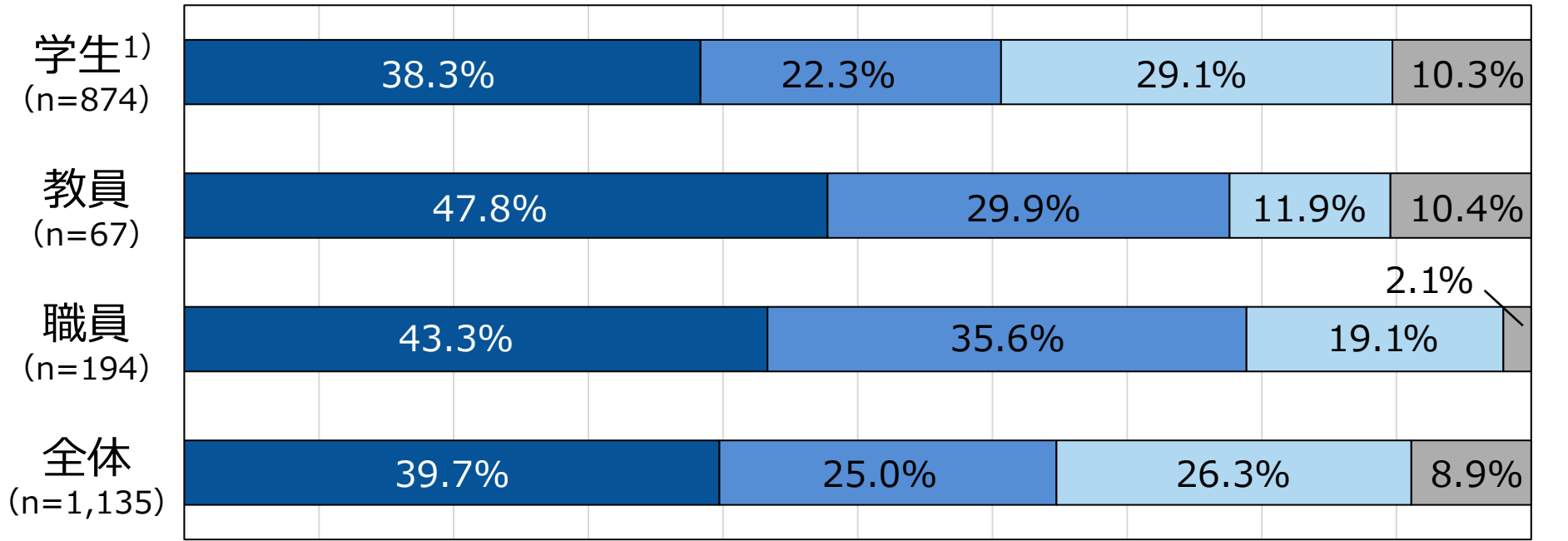
多様な学部の学生から回答が得られた

1) GIS (Global and Interdisciplinary Studies) : グローバル教養学部



2年連続で回答した者の割合が約1/4を占めていた

知っている ← 認知度 → 知らない



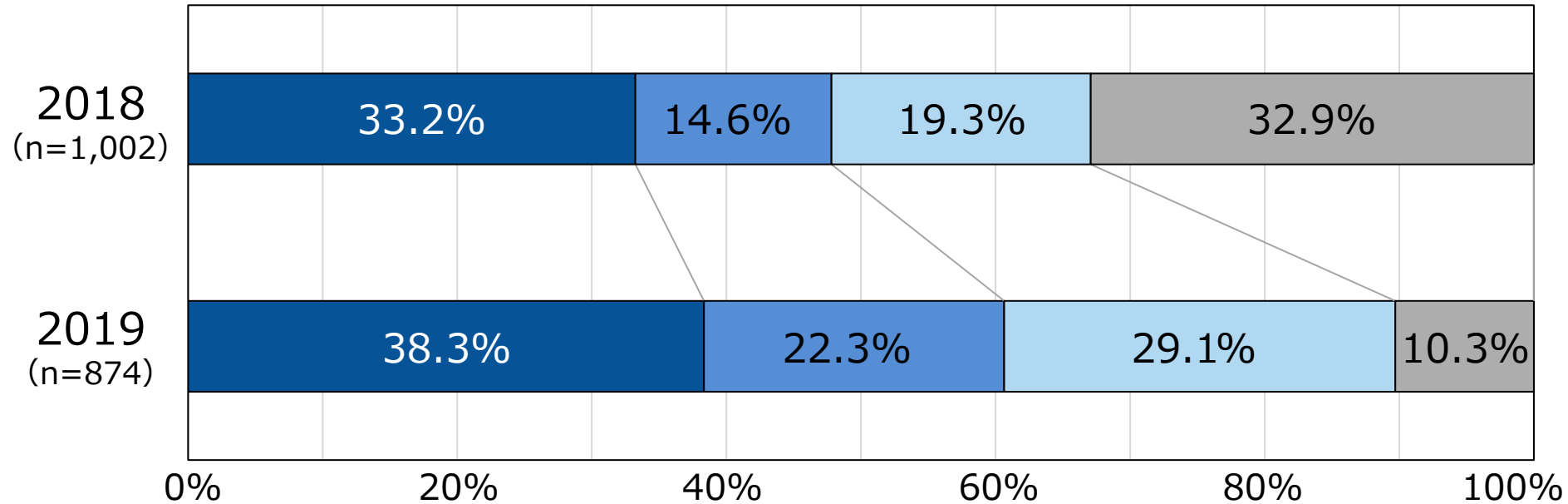
- (下記に加えて) 17のゴール、169のターゲットで構成されるということまで知っている
- 2030年までに達成すべきゴールであるということまで知っている
- SDGsという言葉聞いたことがある、もしくはロゴを見たことがある
- 存在を知らない

全体の90%以上がSDGsを認知している

1) 学部生と大学院生の合計

【昨年度との比較】 学生におけるSDGsの認知度

知っている ← 認知度 → 知らない

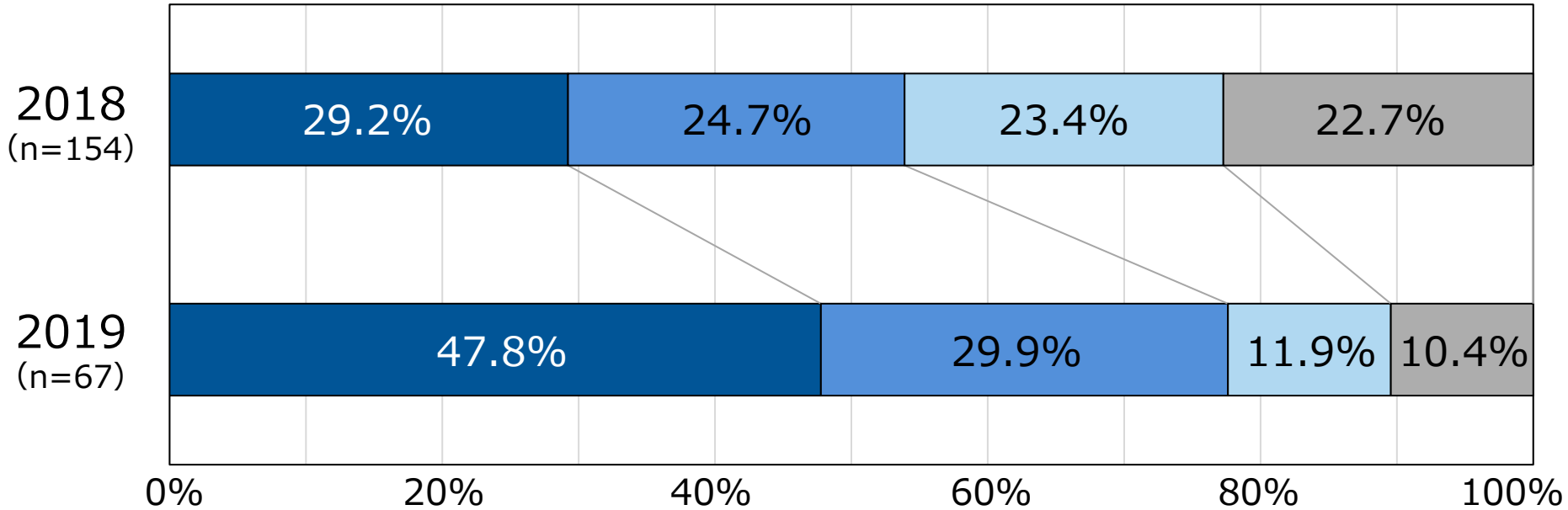


- (下記に加えて) 17のゴール、169のターゲットで構成されるということまで知っている
- 2030年までに達成すべきゴールであるということまで知っている
- SDGsという言葉聞いたことがある、もしくはロゴを見たことがある
- 存在を知らない

「存在を知らない」と回答した学生が大きく減少し、
昨年度と比較してSDGsの認知度が向上

【昨年度との比較】 教員におけるSDGsの認知度

知っている ← 認知度 → 知らない

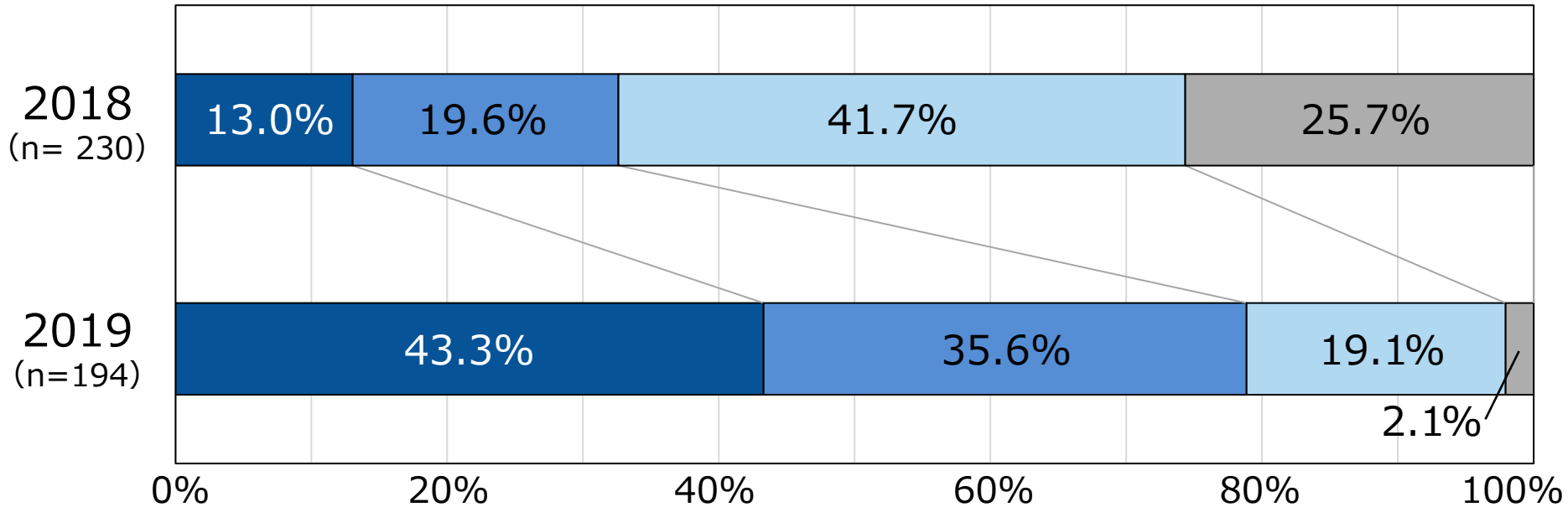


- (下記に加えて) 17のゴール、169のターゲットで構成されるということまで知っている
- 2030年までに達成すべきゴールであるということまで知っている
- SDGsという言葉聞いたことがある、もしくはロゴを見たことがある
- 存在を知らない

昨年度と比較してSDGsの認知度が向上

【昨年度との比較】職員におけるSDGsの認知度

知っている ← 認知度 → 知らない

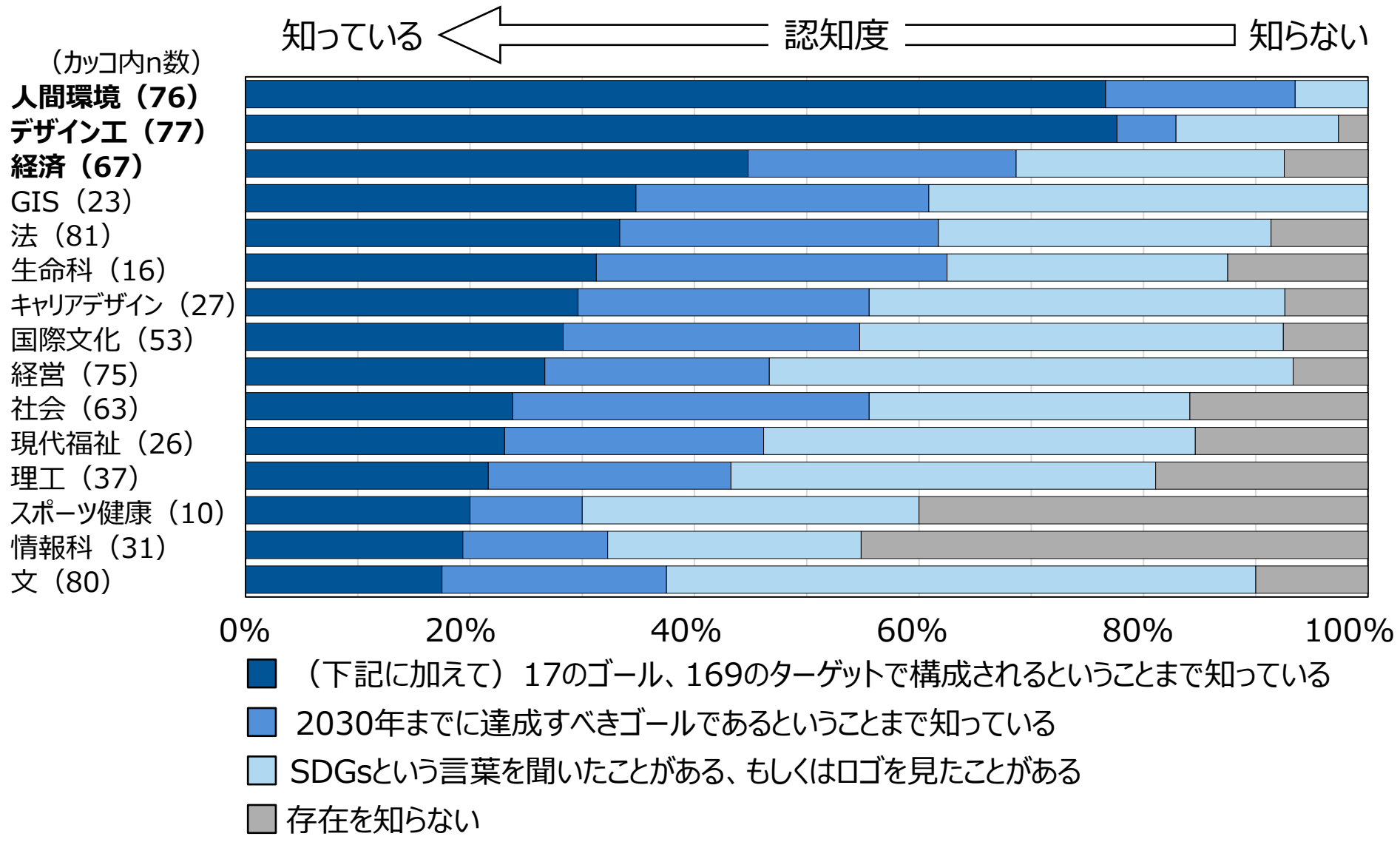


- （下記に加えて）17のゴール、169のターゲットで構成されるということまで知っている
- 2030年までに達成すべきゴールであるということまで知っている
- SDGsという言葉聞いたことがある、もしくはロゴを見たことがある
- 存在を知らない

昨年度と比較してSDGsの認知度が大きく向上

各学部におけるSDGsの認知度（学部生のみ）

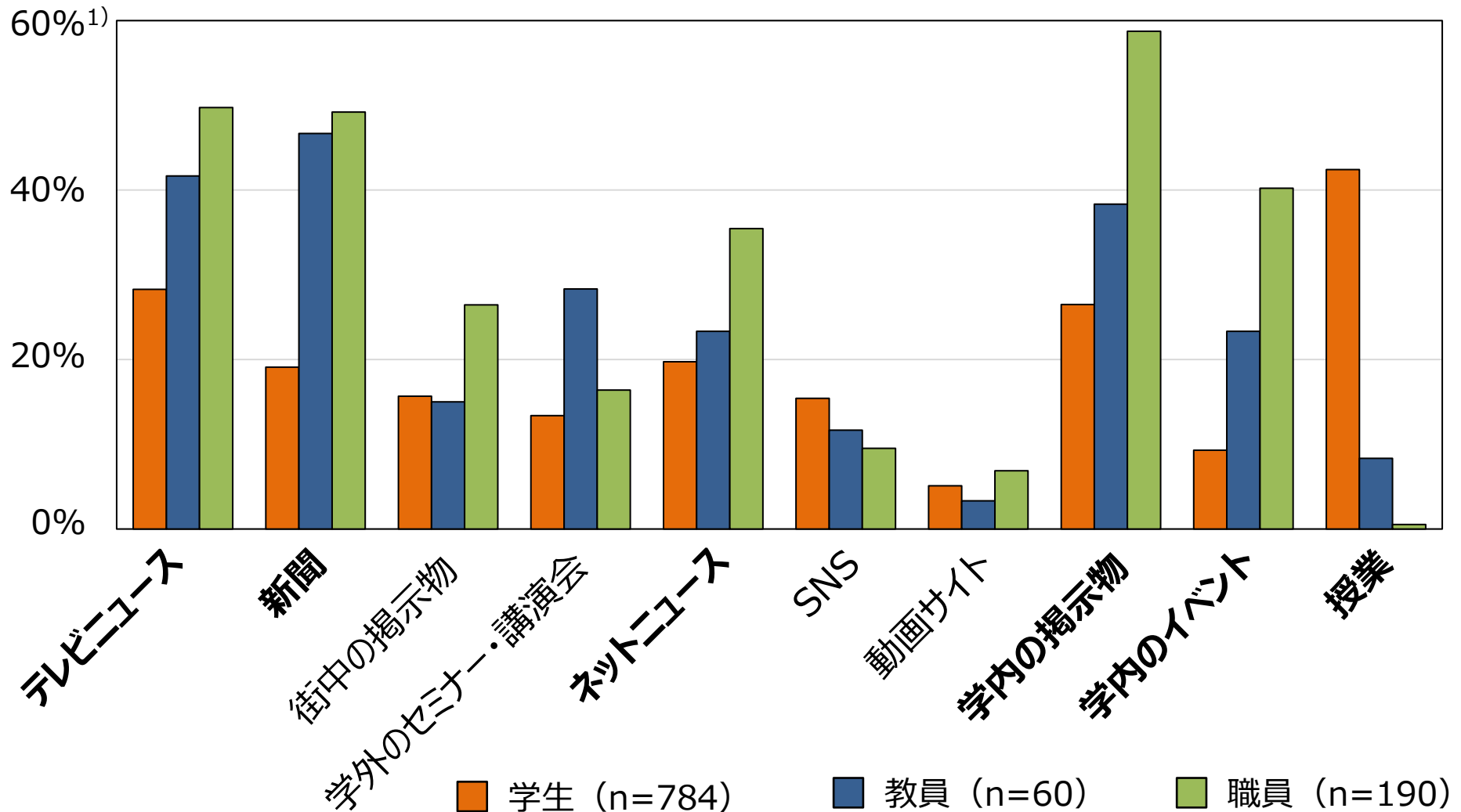
N=742



人間環境学部、デザイン工学部、経済学部における認知度が高い

SDGsの認知手段（複数回答あり）

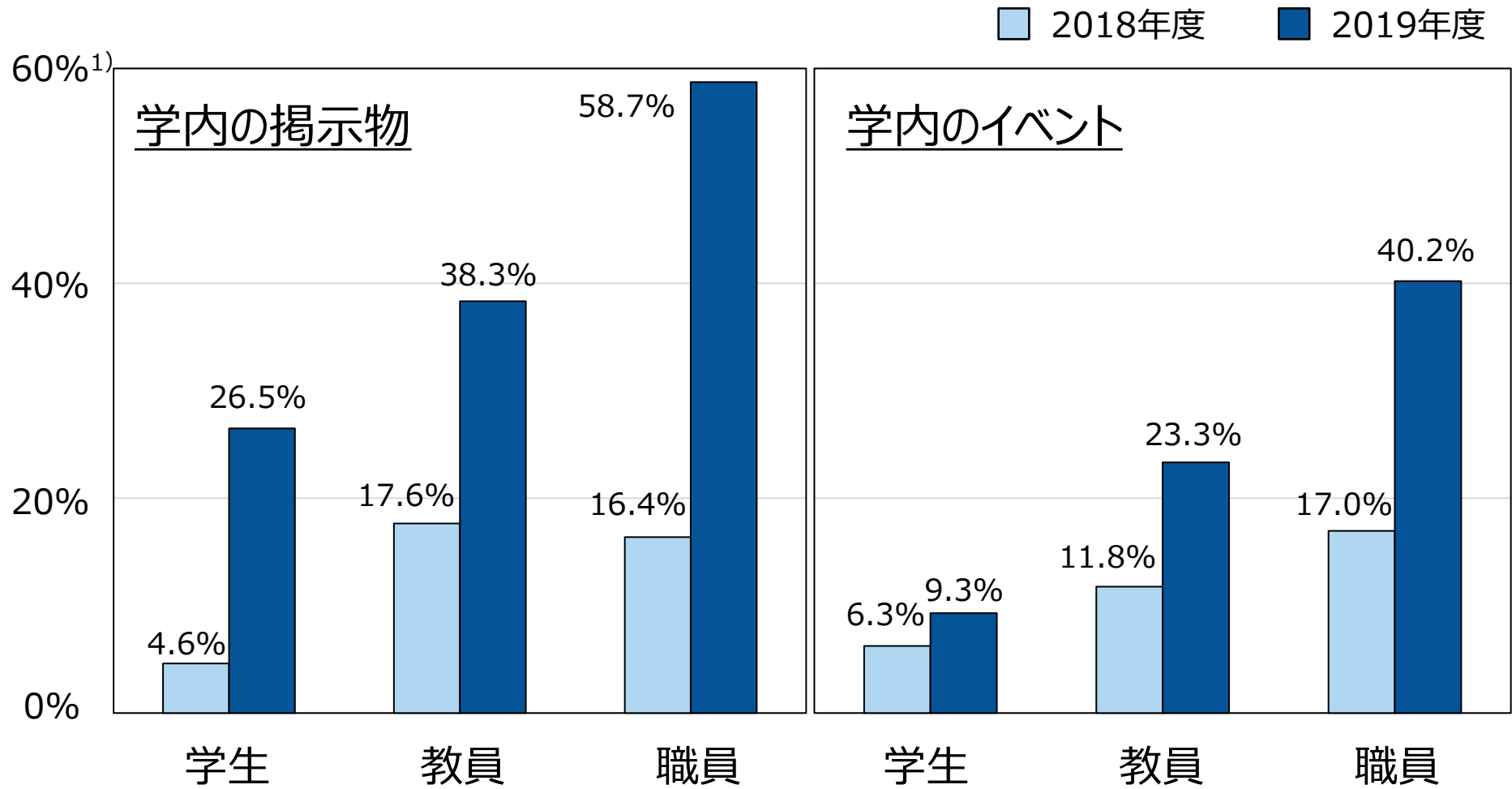
N=1,034



学生は授業、
教職員はマスメディアや学内活動からSDGsを認知する人が多い

1) 縦軸の値は、SDGsを認知している者のうち各方法でSDGsを認知した者の割合を示している

【昨年度との比較】学内活動によるSDGsの認知割合（複数回答あり）

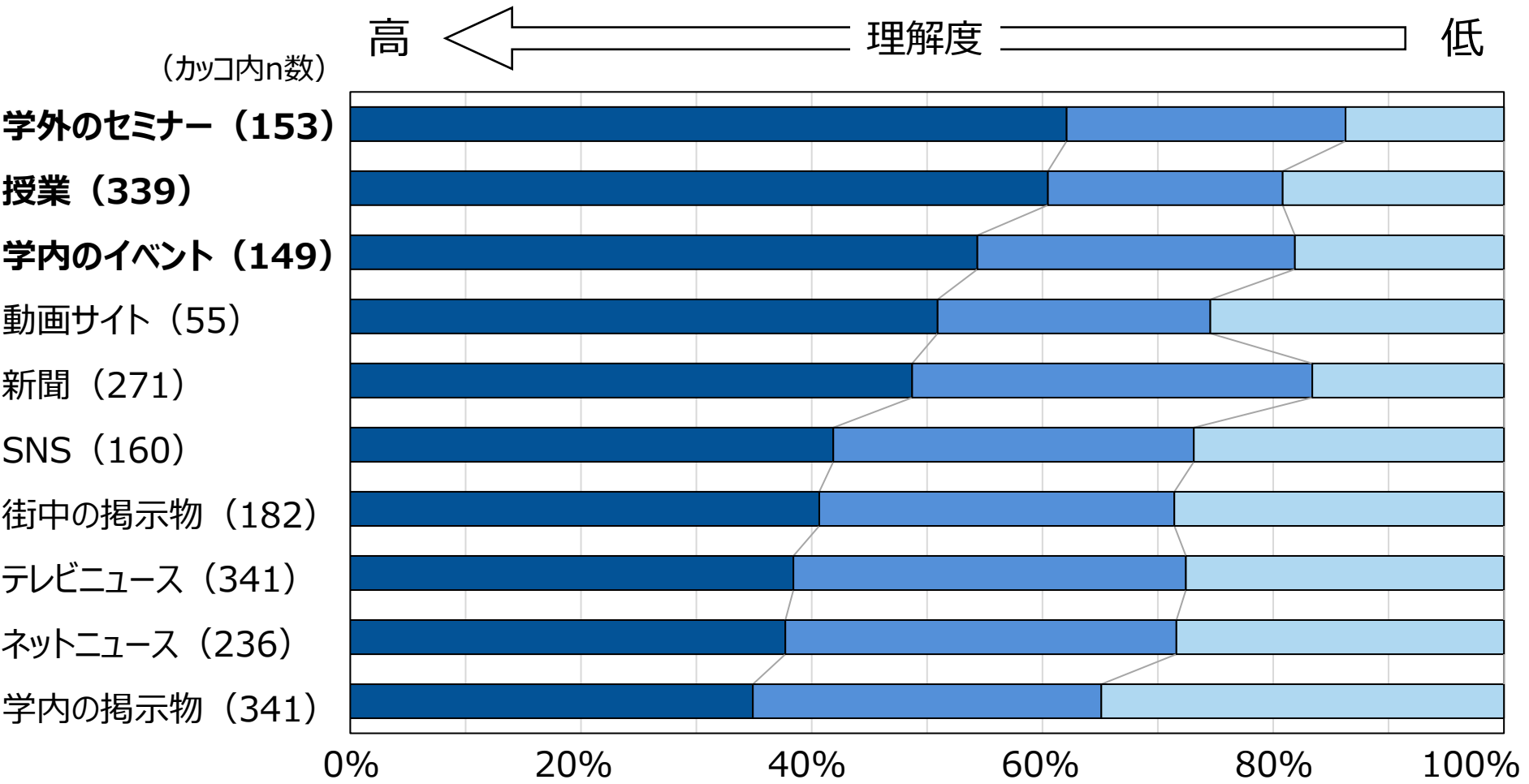


学内活動によりSDGsの認知割合が着実に向上

1) 縦軸の値は、SDGsを認知している者のうち各方法でSDGsを認知した者の割合を示している

認知手段ごとのSDGsの理解度

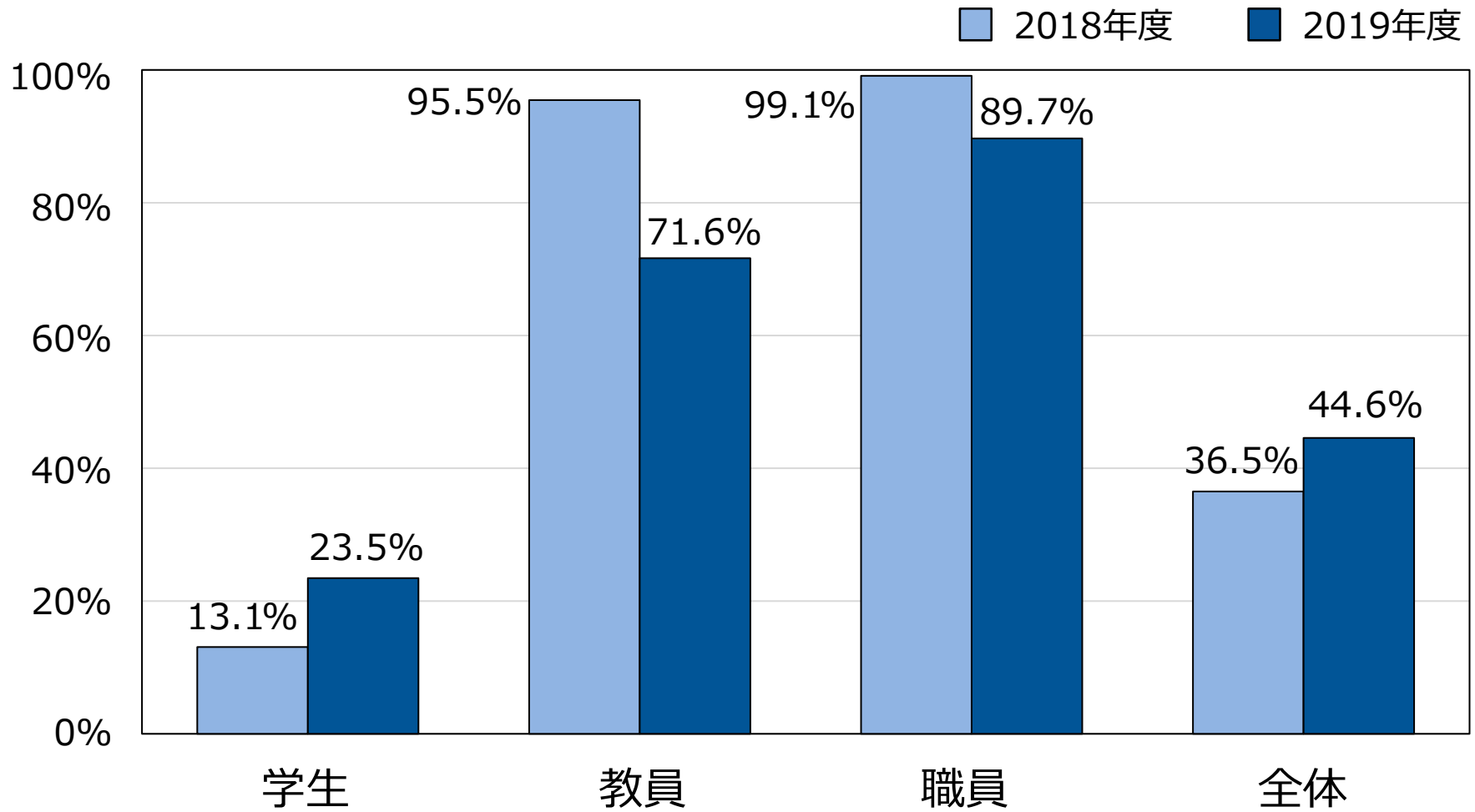
N=1,034



- (下記に加えて) 17のゴール、169のターゲットで構成されるということまで知っている
- 2030年までに達成すべきゴールであるということまで知っている
- SDGsという言葉聞いたことがある、もしくはロゴを見たことがある

セミナーやイベント、授業により認知した人のSDGsの理解度が高い

SDGsステイトメント¹⁾ の認知度

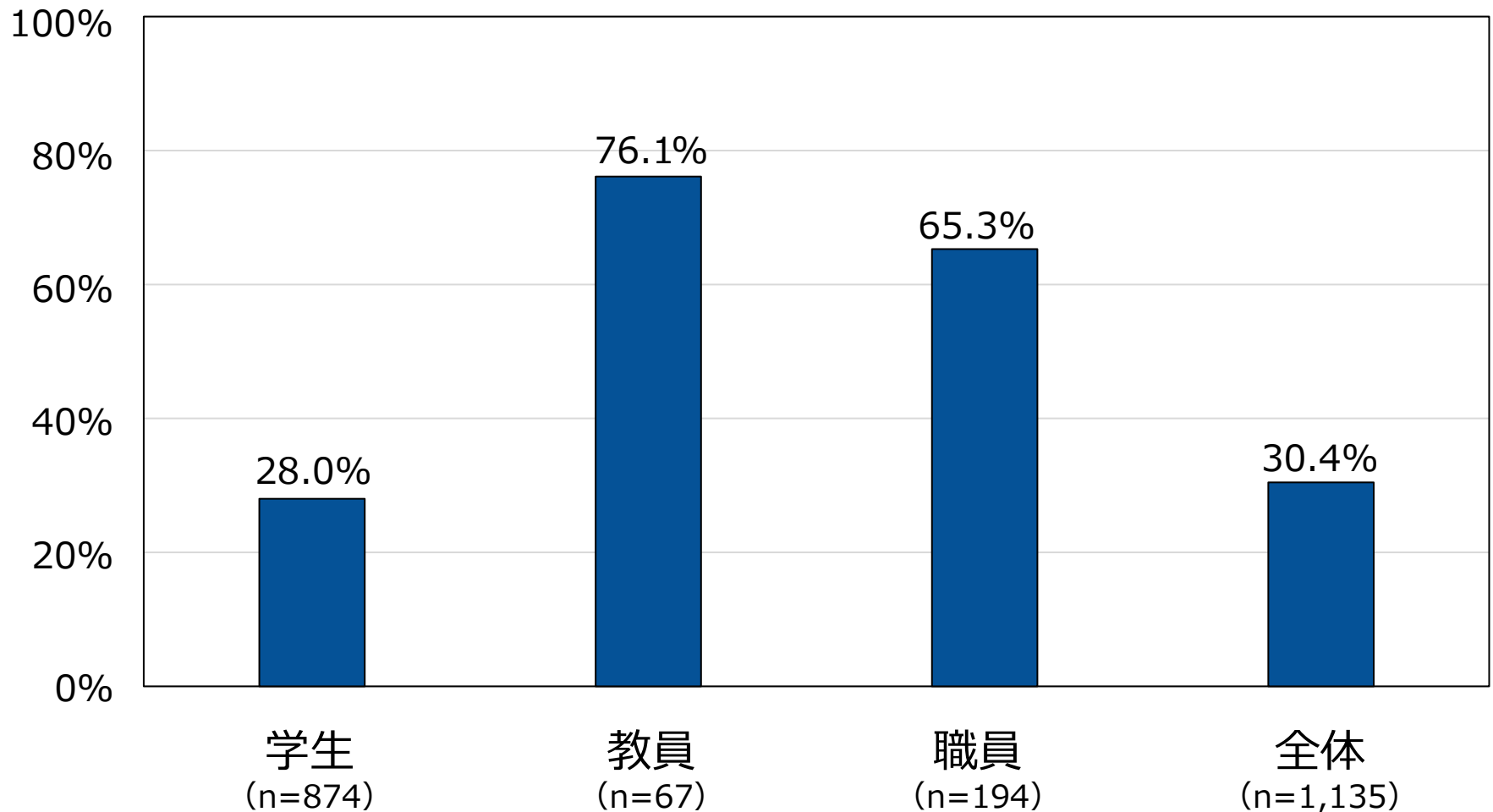


学生においては認知度が上昇し、教職員は認知度が低下²⁾ した

1) 法政大学総長によるSDGs達成に向けた教育推進の声明 (参考: <https://www.hosei.ac.jp/sdgs/hosei/statement/>)

2) SDGsステイトメントは2018年12月に発表されたものであるため、回答者の記憶が薄れてしまっている可能性が考えられる

SDGs科目群¹⁾の認知度

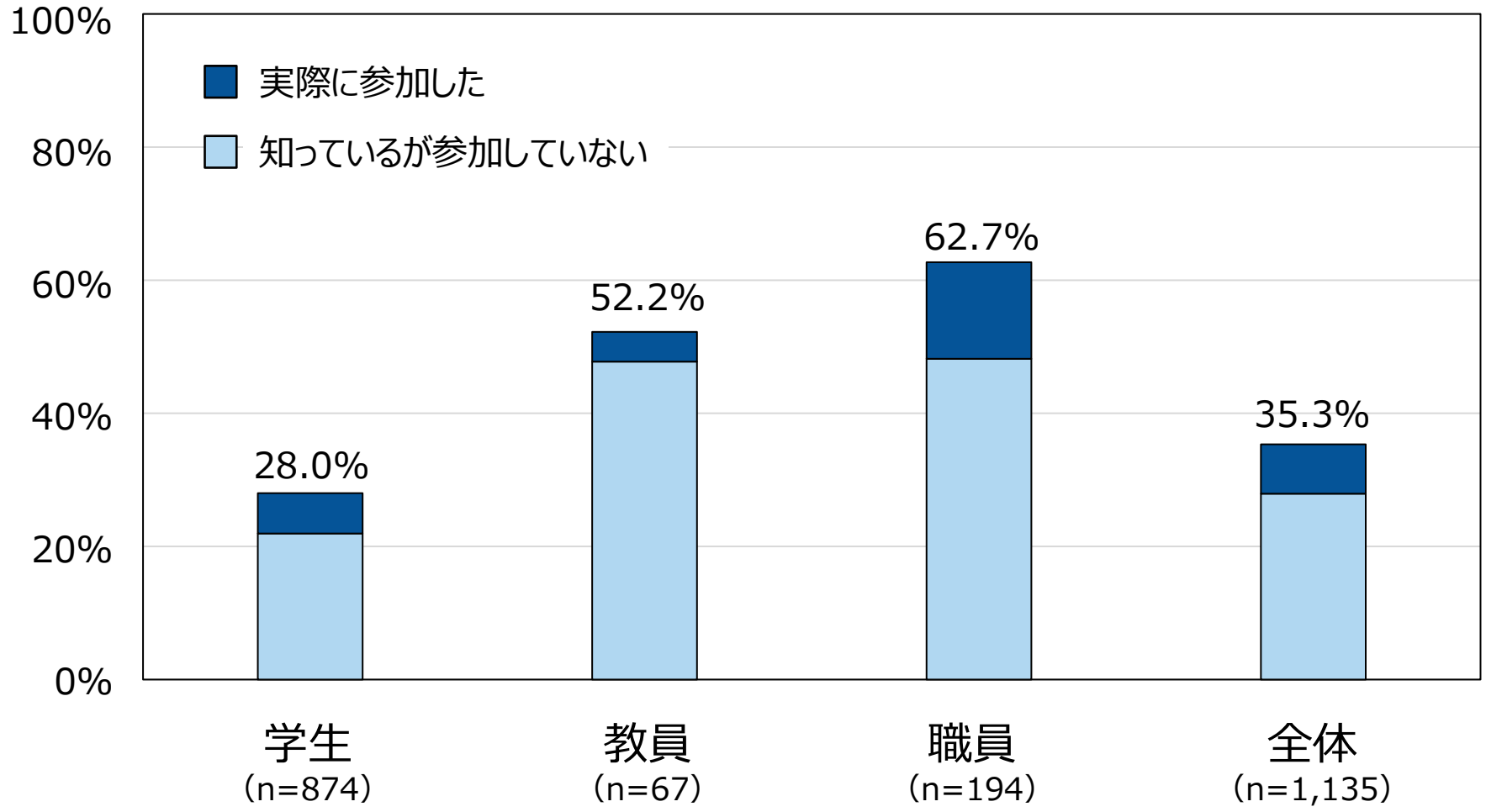


教職員の認知度と比較して、学生の認知度が低い

⇒ 講義の主体である学生への周知徹底が必要

1) SDGsに関する学部横断的な科目 (参考: <https://www.hosei.ac.jp/sdgs/kyouiku/certificate/>)

HOSEI SDGs WEEK¹⁾ の認知度



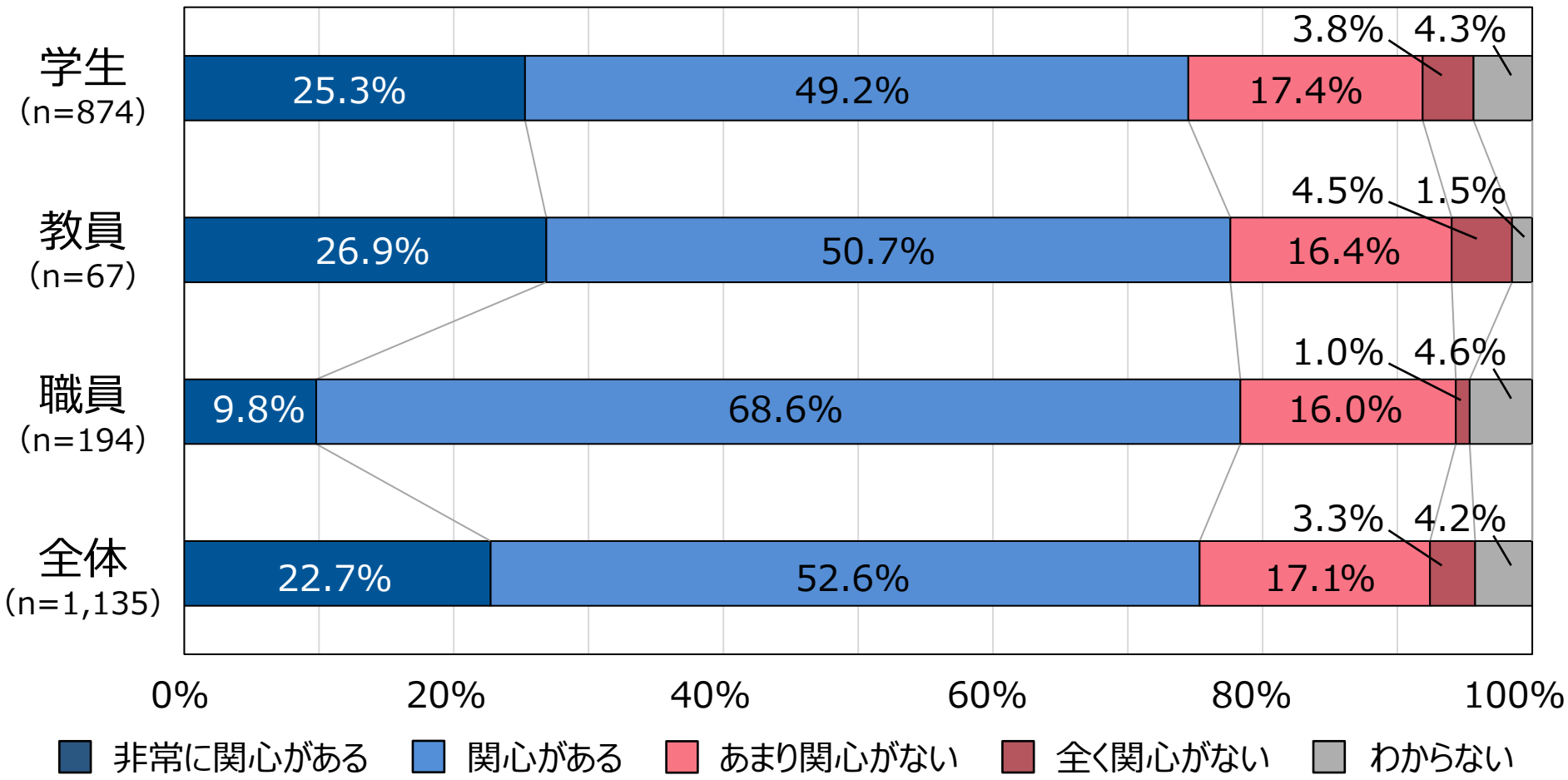
SDGsに関連したイベントの開催にあたってはより積極的な周知が望まれる

1) 法政大学市ヶ谷キャンパスで開催されたSDGsに関するイベント
(参考: <https://www.hosei.ac.jp/sdgs/info/article-20200406144758/>)

SDGsへの関心度

N=1,135

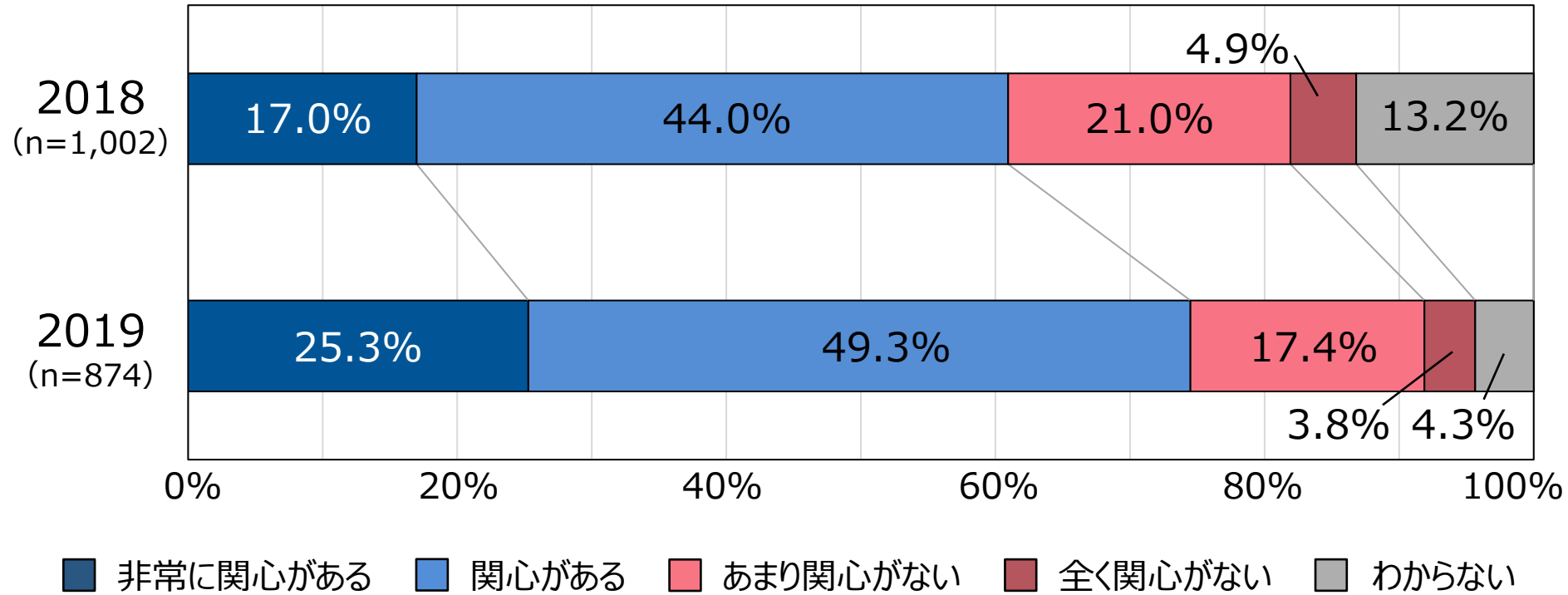
関心がある ← 関心度 → 関心がない



関心があると答えた人の割合は総じて70~80%ほどであった

【昨年度との比較】 学生におけるSDGsの関心度

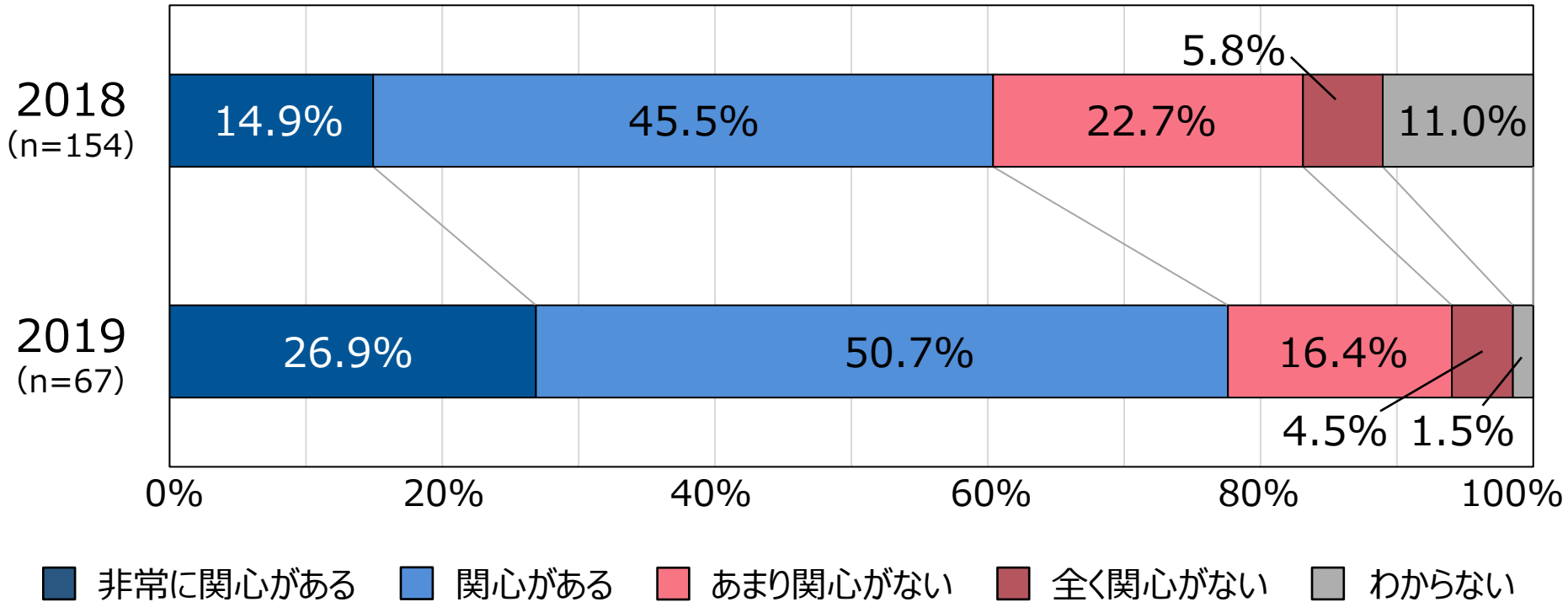
関心がある ← 関心度 → 関心がない



「わからない」と回答した学生の割合が減少し、関心度が上昇した

【昨年度との比較】 教員におけるSDGsの関心度

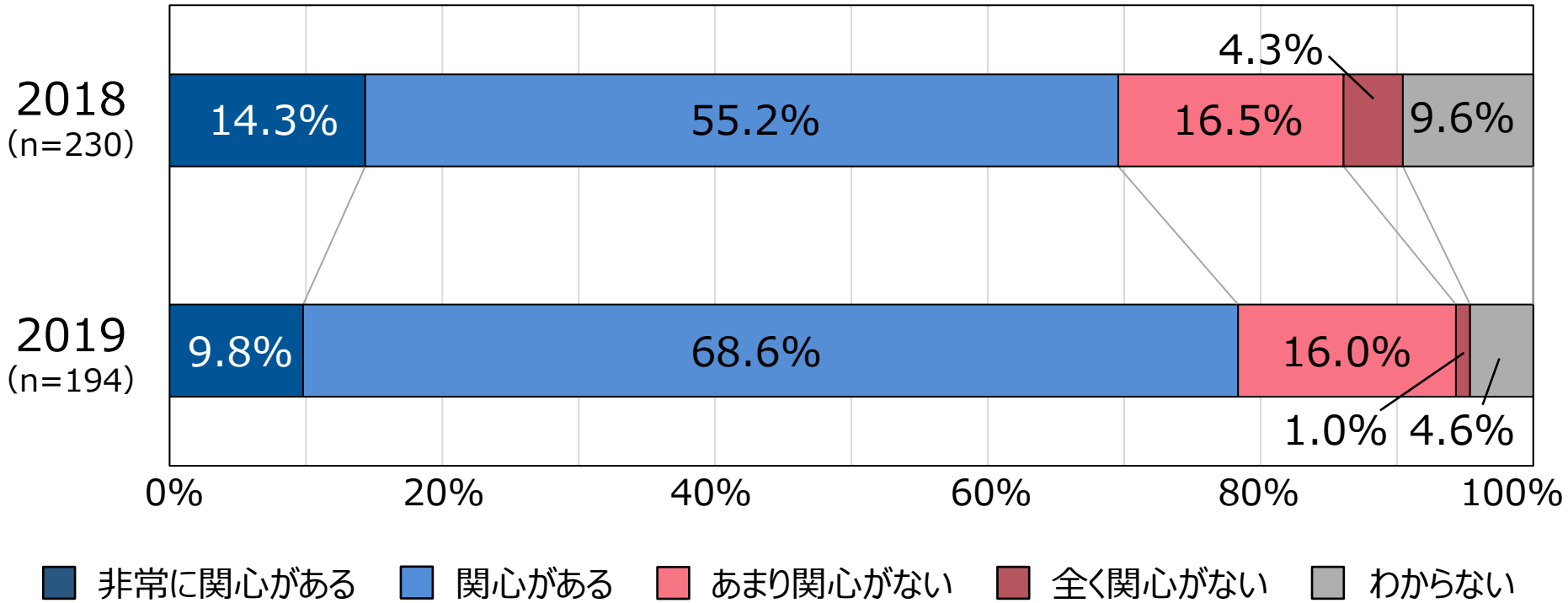
関心がある ← 関心度 → 関心がない



教員においても学生と同様にSDGsの関心度が上昇した

【昨年度との比較】職員におけるSDGsの関心度

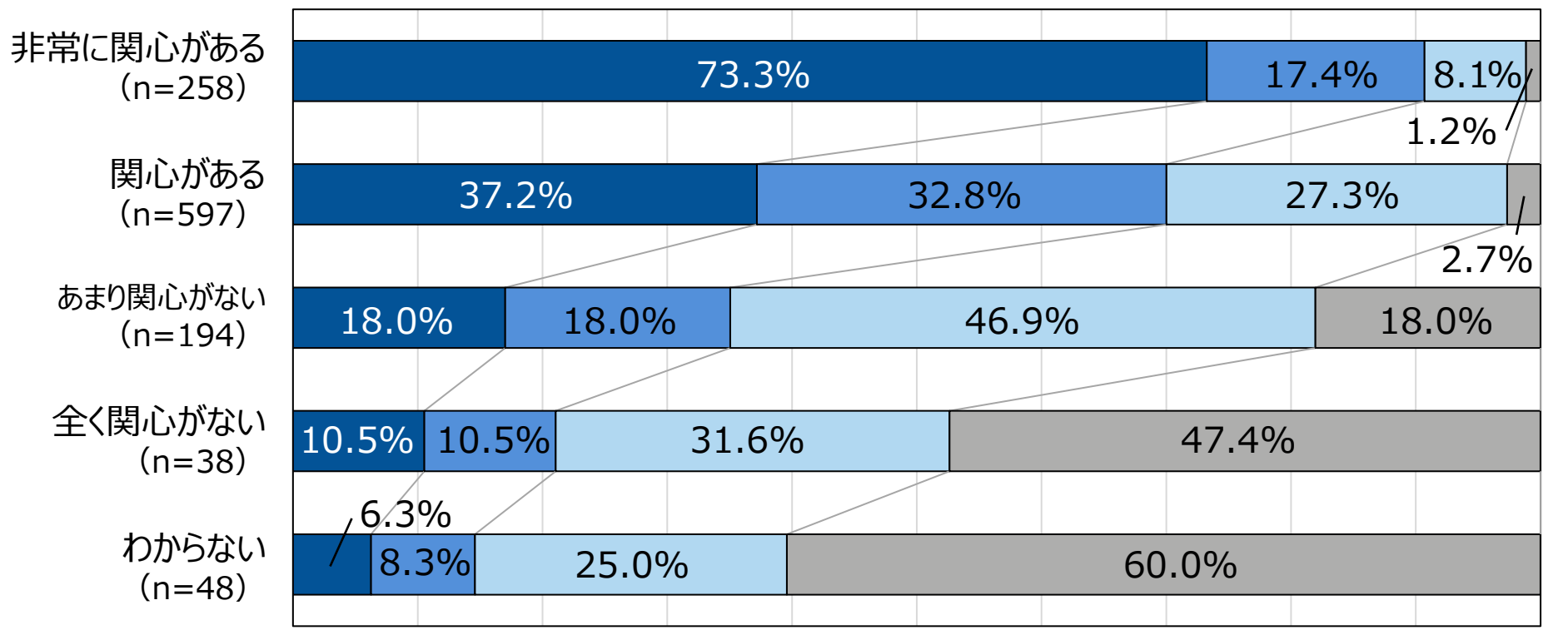
関心がある ← 関心度 → 関心がない



「非常に関心がある」と回答した人の割合はやや減少したものの、職員においても学生、教員と同様に関心度が増加傾向であった

SDGsの関心度と認知度

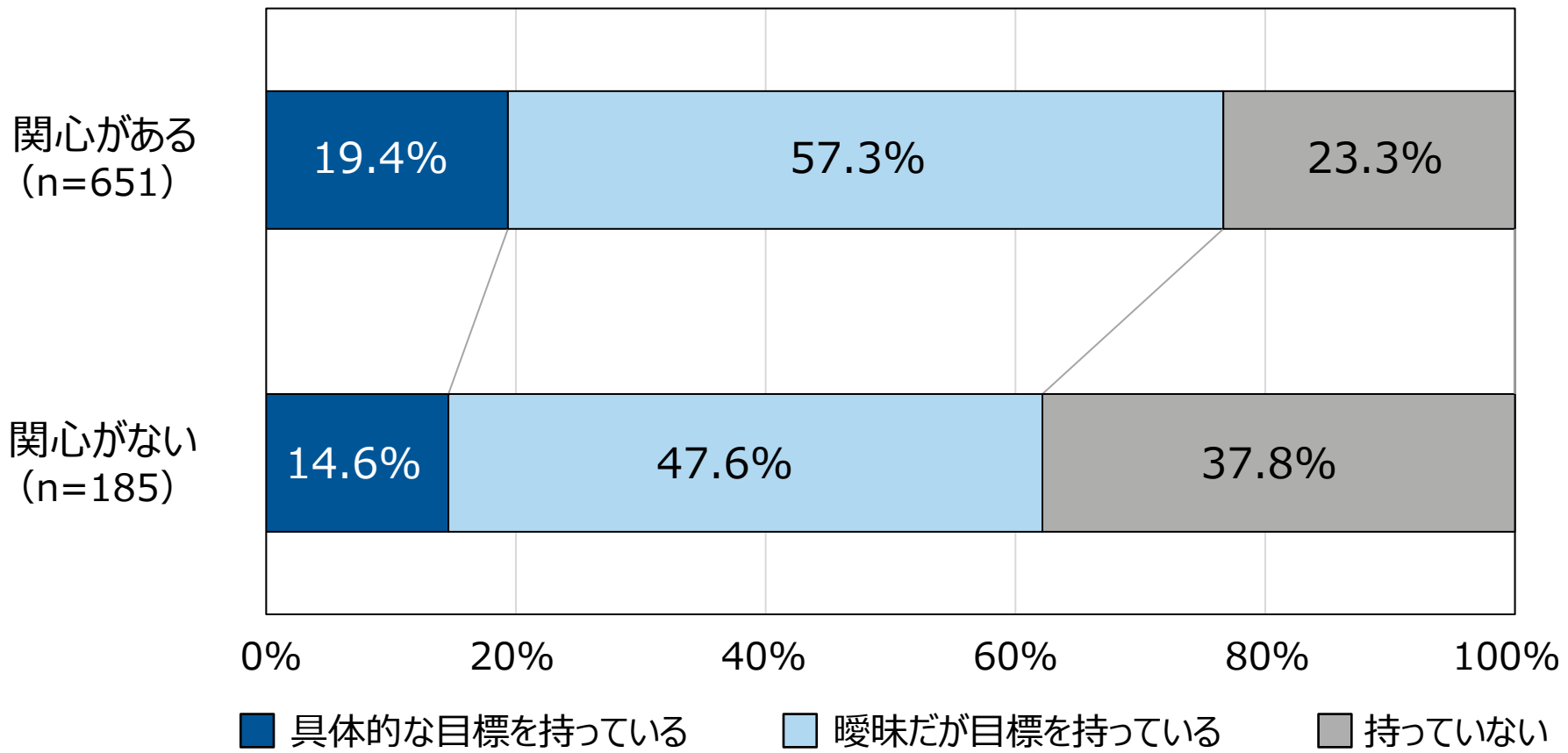
N=1,135



- 0% 20% 40% 60% 80% 100%
- (下記に加えて) 17のゴール、169のターゲットで構成されるということまで知っている
- 2030年までに達成すべきゴールであるということまで知っている
- SDGsという言葉聞いたことがある、もしくはロゴを見たことがある
- 存在を知らない

⇒ SDGsに関心がある人ほど、SDGsをより深く理解している模様

SDGsの関心の有無¹⁾ と2030年までの目標の有無²⁾ (学生のみ)



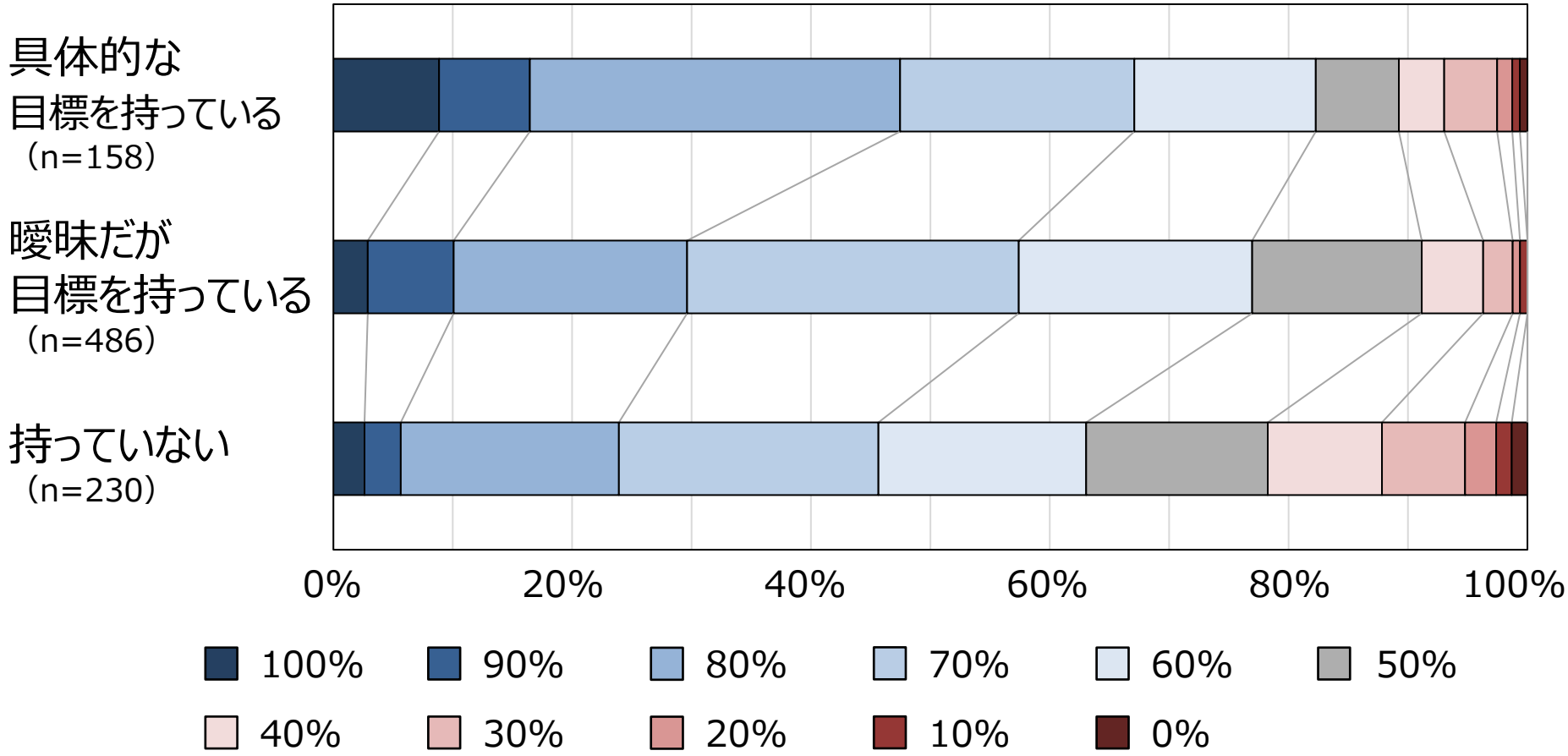
SDGsに関心を持つ学生ほど
将来に向けて具体的な目標を持っている傾向が見られた

1) 「SDGsについてどの程度ご関心がありますか」の設問に対し、「わからない」と回答した学生 (n=38) は分析対象外とした
2) 本項目は、「十年後の2030年までに達成したい目標はありますか?」という設問に対し、「具体的な目標を持っている」「曖昧だが目標を持っている」「持っていない」のいずれかで回答する形式である。なお、目標のスケールや対象等は制限していない。

2030年までの目標の有無と私生活満足度（学生のみ）

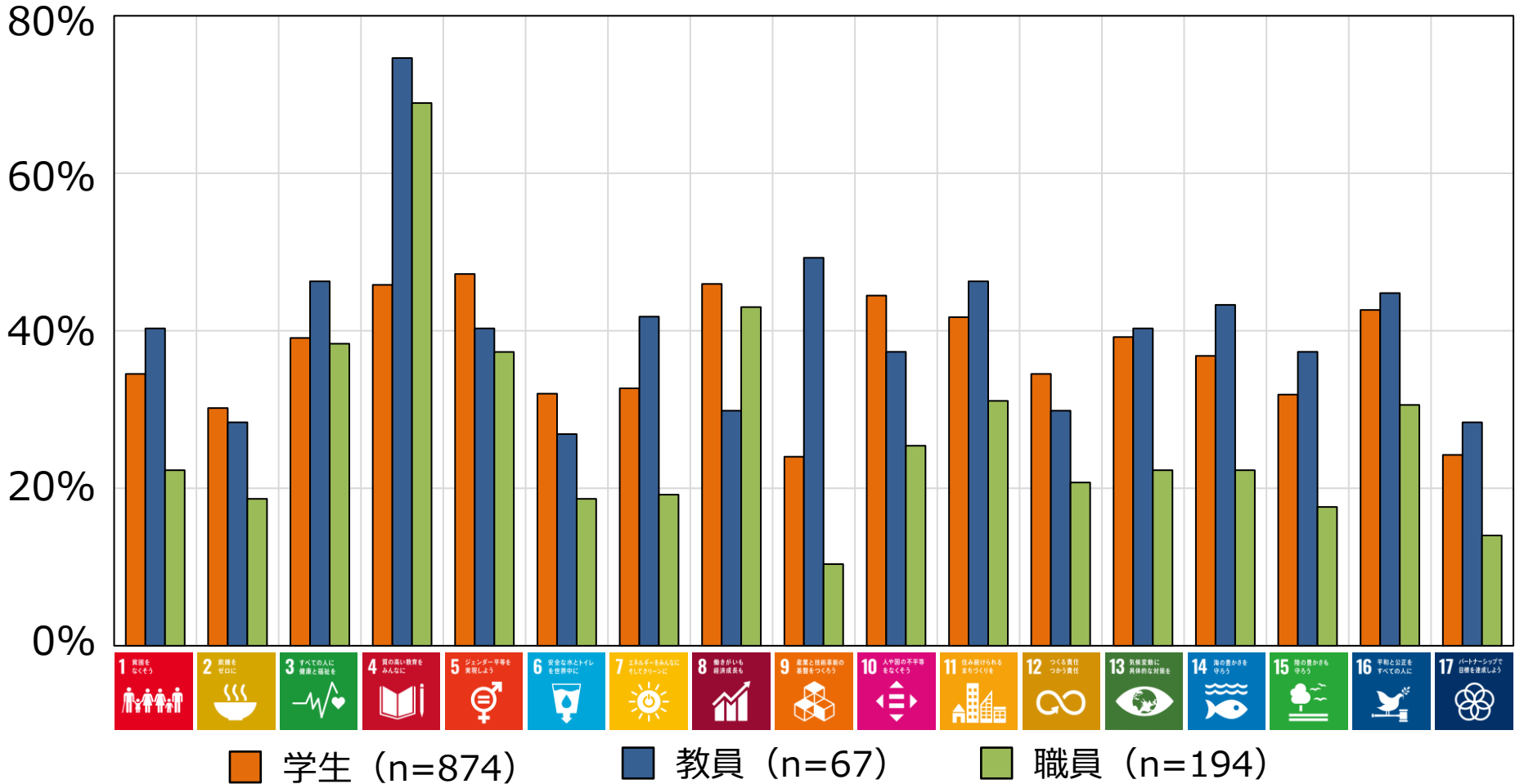
N=874

高 ← 私生活満足度 → 低



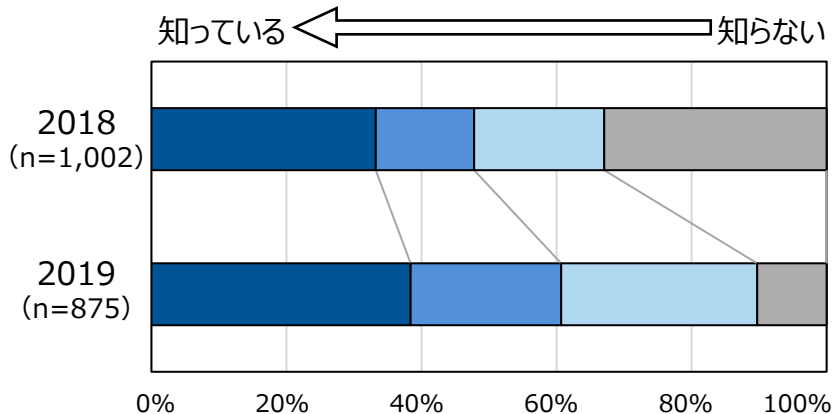
将来に向けて具体的な目標を持つ学生ほど私生活満足度が高まる傾向
 ⇨（前頁の結果と合わせて）SDGsに関心を持つことが将来に対する具体的な目標設定を促し、生活満足度向上につながりうる

今後達成に向けて貢献したいSDGsのゴール（複数回答あり） N=1,135



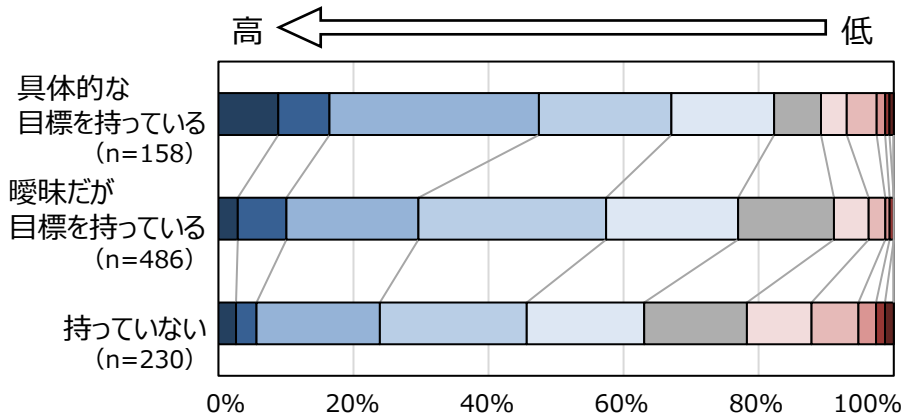
学生はSDGsの様々なゴールに幅広く関心を示す一方、
教職員は特にゴール4（教育）の関心が高い

〈SDGsの認知度（学生）〉



- 17のゴール、169のターゲットで構成されるということまで知っている
- 2030年までに達成すべきゴールであるということまで知っている
- SDGsという言葉聞いたことがある、もしくはロゴを見たことがある
- 存在を知らない

〈目標の有無と生活満足度〉



- 100%
- 90%
- 80%
- 70%
- 60%
- 50%
- 40%
- 30%
- 20%
- 10%
- 0%

- 昨年度からSDGsの認知度および関心度がさらに向上
- 将来に向けた具体的な目標を持つ学生ほど、生活満足度が高い傾向
(SDGsの理念を踏まえて将来に向けた目標設定を促すことが重要)
- 今後もフォローアップ調査の実施とSDGs達成に向けた継続的な取組が必要